

【創育クリエートメールマガジン vol.17】 [2030年のコンピテンシー]

2018.10.10 発行

日頃は格別のご愛顧を賜りまして、ありがとうございます。

本メールは、弊社、創育クリエートが送信元となり、森上教育研究所の協力のもと、教育業界に関するさまざまな情報をお届けするメールマガジン「創育クリエートメールマガジン」です。

なお、本メールは、日頃お付き合いのある、学校関係者様、企業ご担当者様、以前にお名刺を交換させていただいた方へお送りしています。

今回のテーマは「2030年のコンピテンシー」です。

ぜひ御愛読いただければ幸いです。

=2030年のコンピテンシー=

今春、OECDは2015年から進めてきたプロジェクト Education 2030 のポジション・ペーパーを発表しました。このプロジェクトは、2030年という近未来において子どもたちに求められるコンピテンシーと、その育成のための教育のありようを検討するもので、ポジション・ペーパーはその中間報告にあたります。

Education 2030 では、2030 年の世界を“VUCA”、すなわち、不安定、不確実、複雑、曖昧が急速に進展する世界としています。そして、ポジション・ペーパーではこうした世界の中で人がよりよく生きていくために必要なコンピテンシーを次のように定義づけています。

1) 新たな価値を創造する力：持続可能な発展をもたらすイノベーションを、他者と協力しながら生み出す力。適応力、創造力、好奇心、新しいものに対して開かれた意識など。

2) 対立やジレンマを克服する力：平等と自由、自立性と地域利益、変革と継続性など、様々な対立やジレンマ、トレードオフの扱いに熟達し、バランスを取る力。

3) 責任ある行動をとる力：自らの行動の将来の帰結を考え、リスクと報酬を評価し、自分の仕事の成果物について責任を取ること。自己コントロール、自己効力感、責任感、問題解決力、適応力を含む。

今回の中間報告では、こうしたコンピテンシーの育成のためには、「時間の長さよりも質」を重視するためのカリキュラムの見直し、「見直し、行動、振り返り」の連続した過程の必要性を指摘しています。

OECD はこれまでも PISA 調査、キー・コンピテンシーなど、様々な施策・提言等によって、日本の教育の方向性に大きな影響を与え、それは今回の指導

要領改訂にも反映されています。Education 2030 が進められることにより、今後の日本の教育のあり方にも引き続き影響をもたらし、次の指導要領の改訂に反映されると考えられます。

今年小学校に入学したお子さんが高校を卒業するのは2030年。OECDが言うところの不確実な未来を生きていく子どもたちは、今まさに学校教育を受けています。教育改革はまったなし。政策がどうこうというだけではなく、学校教育に関わる全ての人たちがこれからの教育のあるべき姿を考え、スピード感をもって実践していくことが求められているのではないのでしょうか。

(執筆：森上教育研究所アソシエーツ 高橋 真実)

いかがでしたでしょうか？

本メールマガジンの内容等についてのご意見、アドレス変更、配信停止については、

下記E-mailアドレスよりご連絡をお願いいたします。

▽メルマガのバックナンバーは下記URLよりご覧いただけます。

<http://www.soiku-c.co.jp/mailmagazine.html>

■送信元：株式会社 創育クリエート

東京都港区西新橋3-24-3 川名ビル

TEL. 03-5472-5772

【配信停止・お問い合わせ】

create@soiku-c.co.jp

■□□-----

▼創育クリエートHP▼

<http://www.soiku-c.co.jp/>

[事業内容]

広報ツール制作、WEB コミュニケーション、
教育メディア事業、広告代理、IT ソリューション
などの事業を展開しています。

■広報ツール制作

<http://www.soiku-c.co.jp/contents1.html>

■広告代理業

<http://www.soiku-c.co.jp/contents4.html>

■情報誌編集

<http://www.soiku-c.co.jp/contents3.html>

■WEB ページ制作

<http://www.soiku-c.co.jp/contents2.html>

■IT ソリューション

<http://www.soiku-c.co.jp/contents5.html>

[採用情報]

現在、外部パートナーを募集しています。

<http://www.soiku-c.co.jp/employment.html>

-----■□□

次回も皆さまにとって有益となるような教育情報のメールマガジンを配信できるように努めて参りたいと思います。